



HISPANIA ESTUDIO2

1年間のスペイン語語学留学

海外語学学校留学プログラム

実施日：平成28年9月1日～平成29年9月1日

実施場所：HISPANIA ESTUDIO2（スペイン マドリード州 マドリード自治区）



目的

「英語が全てではない。」大学に入り、国際交流を積極的に行った結果こう考えるようになった。グローバル化が進む現代では英語でのコミュニケーションは必須である一方で、非英語話者とのコミュニケーションは容易ではない。特にスペイン語の母語話者数は世界第2位であり、それを学ぶことにより、より多くの外国人とのコミュニケーションができる。

私は外国人と接することで得られる彼らのアイデンティティーに興味があったので、今後のコミュニケーションの広がりを期待し、スペインに語学留学をして、スペイン語の習得を目指した。

事前準備

私費留学であるため、全ての手続きを自分で行った。以下が主な流れである。

①留学先の学校の選定

エージェントを利用せず、事前にインターネットで調べた学校にEメールを送り、詳細を聞いた。最終的に非営利団体「日西協会」のサポートによりHISPANIA ESTUDIO2に決定した。

②宿泊先の選定

長期ビザ申請にあたり、宿泊証明が必要なため、あらかじめ3ヶ月の滞在先を決めておく必要があった。HISPANIA ESTUDIO2が紹介したホームステイ先へ決定した。

③長期滞在VISAの申請

申請するための書類（入学許可書、健康診断書、海外旅行保険、無犯罪証明書等）を揃える必要があり、事前準備を行った。

○Las Recsidencias

ビザ取得のため日本出発前からあらかじめ3ヶ月先の居住先を決めておく必要があったので学校で斡旋してもらったホームステイ先に滞在した。ホストファミリーは年配の女性の方一人だったが、熱心にスペイン語で話しかけてくれて伝統的なスペインの料理をふるまってくれた。

3ヶ月後はPisoと呼ばれるアパートでルームメイトとともに暮らした。ルームメイトはスペイン人の社会人で生活リズムが異なったため会うことは少なかった。スペインのアパートの賃貸形式は、基本的に大家さんと直接やり取りをする。Pisoを探す際は1ヶ月前くらいから、インターネットを活用し、学校の先生に手伝ってもらいながら、自分のライフスタイルに合う部屋を探した。

○El Horario del Día

4時間の授業を週5で行っていた。午前中に授業が行われるため、午後は友達と会ったり、街を歩いたり比較的自由に過ごした。

ホームステイ中は授業後、お昼は家でホストマザーが作ってくれた料理を食べ、その後、勉強や外出をした。

一人暮らし中は、学校が終わったら、食材の買い物や外食も増え、スペイン人と話す機会も増えた。

○Las Clases en la Escuela

授業内容は主に会話と文法の授業だった。会話の授業は定型文の練習ではなく、その日にあったことの話や自分の興味のあることなど、思い思いに話をした。先生は、スペイン人の日常や考え方、スペインの風習などを説明してくれたため、会話力と同時にスペインの文化を学ぶことができる授業であった。

文法の授業は、最初は時制などの基本的なことを学び、その後演習問題という形が多かった。長文読解やプレゼンテーションも行い、会話の授業に近い形式で文法の勉強も行った。常にインプットとアウトプットが行われているような授業であった。

○Los Encuentros

留学中にたくさんの人々との出会いがあった。そして様々な人と話すことでいろいろな考えに触れることができた。日本にいたら絶対に考えつくことができないような話や体験を聞くことができた。中でも一番印象に残っていることはスペインで出会ったドイツへ移民したトルコ人の女の子である。彼女は現在トルコに留学中であるが、スペインで知り合い、彼女から話を聞くことができた。彼女とは主に英語で話した。彼女はドイツで育ったが、イスラム教を信仰しており、ドイツ人からのいじめや迫害に苦しんできた。そんな彼女に、「例えば、トルコかドイツのどちらかが歴史的な偉業を成した時にどちらの国を誇りに思うのか」聞いたところ、「何も思わない。」と答えた。理由を聞くと、「I'm human.」と答えた。つまり、彼女はどこの国にも属さない、ただの人間として生きていた。これは私にとって全く斬新な考え方であり、とても驚いた。これは日本においては絶対に触れることができない考え方であった。このように海外で過ごすことによってたくさんの人々と出会い、たくさんのアイデンティティーに触れることができた。

成果

今回の留学を通して、一番の大きな成長は視野の広さを持てたことである。もちろん語学留学に行ったのでスペイン語の上達が一番の成長であるが、それ以上に、多くの人に出会い、多くの考え方を聞くことができた。人それぞれ違うことを考えることは当たり前だが、国が違ってもさらにそれが顕著となり、とても興味深かった。それと同時に日本人ならではの考え方にも注目できた。以前ならば、独創的な考え方に対して、偏見を持っていたが、今では、様々な人がいるということが念頭に置かれているので、受け入れることができるようになった。これも留学した成果であると考えている。

HISOANIA ESTUDIO2の説明

スペインマドリードの中心に位置する語学学校。1991年からサラマンカ大学言語学部卒業の2人の先生が経営しているアットホームな学校。少人数クラス制で、レベル別の授業が行われている。長期・短期留学、DELE(スペイン語認定証)対策授業、個別授業やオンライン講座も行っている。長年日本人の生徒を受け入れているため、日本人にとってわかりやすい授業であると定評がある。



図1 HISPANIA ESTUDIO2ロゴ

○Las Actividades Fuera de la Escuela

夏季冬季に学校に留学生が集中する時期は課外活動が行われた。マドリードの観光をしながら、その歴史を学び、質問書が配られ、スペイン人に話しかけて質問をしてそれを埋めるという活動が行われた。学校が中心部にある立地上マドリードの観光地はほとんど歩いていくことができた。そのため、Palacio Real de Madrid(スペイン王宮)、Templo de Debod(デボー聖堂)、Parque de El Retiro(レティーロ公園)、Museo Nacional del Prado(プラド美術館)等に行き、その歴史を学んだ。

それ以外の時期は基本的に生徒は少なかったため、個人的に学校の先生と出かけることもあった。その中で一番印象的なことは、先生の実家のある、とある田舎に連れて行ってもらったことである。スペイン滞在中はマドリードの中心部に住んでいたため、都会の空気に毎日触れていたが、田舎の空気に触れることはほとんどなかった。しかし、先生の地元は、街にレストランが2つしかないような小さな街で、そこにいる人全てが知り合いのような雰囲気であった。時間の流れがゆっくりで、スペインの違う一面を見ることができた。そのようなゆったりとした小さな田舎町で生活をした留学生仲間はおらず、とても貴重な経験をした。

学校以外の活動では、スペインに住んでいる日本人と、スペイン人との交流会がいくつかあり、そこに参加した。日本語を話すスペイン人や、そうでないスペイン人、日本人のことを全く知らないアメリカ人など、いろいろな人がいて、主にスペイン語や英語でコミュニケーションをとった。そこから友達が広がり、日本人以外の友達をより多く作ることができた。

○Los Viajes

長期留学ということで学校の無い週末や、一週間の休暇を利用して、スペイン国内や近隣国への旅行ができた。群馬大学の留学生で帰国したヨーロッパ人の友達とも会うことができた。日本にいては気軽にいけない場所に旅行することができた。また家族や友達がスペインに来て案内する機会もたくさんあったので、観光名所の歴史など学校で教わった知識を披露することができた。



図2 夏季課外活動Puerta del Solにて



図3 元群馬大学留学生とイタリアにて



図4 最後の授業の記念撮影



○Mis Amigos

留学中は学校以外で友達を作ることは大変であったが、自ら進んで行動することによって、様々な出会いがあった。

課外活動としては、日本人とスペイン人の交流会に参加して、その後自分で積極的に友達を作り、友達の友達へとどんどん輪を広げていった。

図5 課外活動と出会った人

今後への展望

このプログラムでは語学習得がメインであると同時に、外国人のアイデンティティーを感じることが目的にあった。そのため日本にいたら想像もできないようなアイデンティティーを持っている人に会うことができた。スペイン語の習得により、今後さらに多くの外国人とコミュニケーションすることができるようになったので、さらに彼らの考え方を知ることできると考えられる。そして日本では知り得ないような彼らのアイデンティティーを広めて、世界の広さを周知していきたい。